

イチ押し

## 地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く 経済リレーインタビュー⑧

北本市 石津賢治 市長 (48歳)



「観光100万人都市の目標を掲げ、様々な施策を展開していく」と話す石津賢治市長

埼玉県のほぼ中央に位置する当市は、人口約7万人の住宅都市で、経済施策を単独で行うにはなかなか難しい面がありますが、市内にある商業や農業を活性化させながら、市民の生活を充実させ、税収を増やすことが重要だと考えています。もちろん、他市のように企業誘致に積極的に取り組むことで、法人税の増収や市内の雇用創出などに、大きな効果が見込まれますが、現在の経済情勢ではなかなかこれは難しいです。事実10年ほど前までは、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の市内通過を予定して、流通業を中心に誘致活動を進めてきました。その最大の成果が関東グリコ株式会社の北本ファクトリーで、雇用も創出されたうえ、新たな観光資源としても活用できる施設として喜んでいるところです。ただ、先ほども申し上げましたが、圏央道の市内通過で産業集積地としてのポテンシャルが高まっているにもかかわらず、農地転用が出来ない制度や市域面積が限られていることなど、景気が落ち込んでいる今の状況では、積極的な企業誘致が展開できない一面もあります。

そこで、企業誘致に加えて経済活性化策は何かと考え、「観光100万人都市」の目標を掲

げました。大勢の人に当市を訪れて頂き、市内で買い物をして頂ければ、それだけ経済が活性化します。本当の目的は、観光で来た人たちに、この北本というまちを気に入ってもらい、住んで頂くことを望んでいるのです。とは言っても、まだまだ知名度の低い当市ですから、知名度を上げるため観光に力を入れていくことにしたわけです。幸い、関東グリコ(株)北本ファクトリーには製造工程やグリコ製品を見学できる施設がオープンし、予約が取れないほどの盛況で、お蔭さまで観光資源として大いに活用できます。また、日本の5大桜に数えられる『石戸蒲ザクラ』や『阿弥陀堂のエドヒガンザクラ』、あるいは全国の桜を集めた『高尾さくら公園』があり、春の満開時期には多くの人々が訪れています。秋になると、関東一と言われる勇壮なねぶたや山車の引き廻しを行う『北本まつり』で盛り上がり、昨年も11月10、11日に行われ、10日の宵祭りには過去最高の6万5,000人の人々で賑わいました。

こうした地域資源で市外から人を呼び込むために、いまハードとソフトの両面で整備計画を策定しているところです。その柱となるのは、JR北本駅西口広場の整備に併せた賑わいづくりを行う『北本らしい“顔”の駅前づくりプロジェクト』であり、容易に“まち歩き”ができるように、市内の観光スポットを示した『観光ルートサイン整備事業』、あるいはイベントや季節に合わせて設置する『街灯フラッグ作製事業』などです。また、『るるぶ特別編集・北本版』を発行して、当市の魅力を高めていくほか、貴重な観光資源となっている自然とコウノトリの共生を通して、環境保全や地域振興を考える取り組み、戦国時代に築城されたと言われている石戸城の保存・管理も整備計画の中にも含めました。とにかく、人が動けば経済（お金）も動くので、人が大勢来るようにと、手を打ち始めたところです。

観光で市内消費を高めるだけでなく、市民にも地元の商店で買い物をして頂くために、2010年から北本市商工会が事業主体となって発行する『北本市内共通プレミアム付き商品券』の支援事業を始めました。昨年10月も補助金を交付して5,500万円分の商品券を販売しましたが、短期間で完売しています。商業活性化ではプレミアム商品券の効果は大きく、他市でも単年度に限って取り組んでいます。当市では毎年実施していることが自慢です。今後は、高齢社会を見据えて、市内の商店が御用聞き的なサービスで各家庭を訪問する方式や、生活上の困りごとを相談できるシステムを構築できないかと考えているところです。

農業の活性化では、総合的な農業振興計画を定めて健全な発展を図っているところです。農産物では、昔からの市内特産物であるトマトをベースにした“トマトカレー”が前回の埼玉B級グルメ大会で優勝し、今では市内の8店舗で提供するなど知名度が上がっています。これに果物のプラムの出荷量が県内上位を占め、梨もブランド力が高まり、農家に苗木や防虫剤の購入に補助を出して、トマトとともに支援しているところです。特に、トマト出荷額は単価が高く、若い人たちが積極的に栽培していますので、行政としても支援させて頂くことにしました。

このように、当市では新たに観光100万人都市を目指して、経済の活性化に向けた施策を打ち出していくことにしていますが、何よりも大事なのは市民の暮らしで、『住んでいて良かった』と、思えるような実感を与えていきたいと思えます。私が市長に就任した直



「北本まつり」では、勇壮なねぶたや山車の引き回しが行われている

後、市財政は逼迫していて、新たな予算を組むことも難しい状況でありました。徹底的な行財政改革を断行して、ようやく3年度目になって新規事業にも取り組める予算を計上することができ、市民の皆様には大変ご苦勞をお掛けした経緯があります。その行財政改革の成果で余剰金を出すことができましたので、市民に還元しようと2011年度には個人市民税を10%、納税者一人当たり1万891円を減税し、可処分所得の割合を増加させました。そして2012年度には、都市計画税を0.25%から0.20%引き下げ、納税者一人当たり5,263円の減税を実施しています。減税が即、地域経済の活性化に大きな効果をもたらすとは申しませんが、市民に税について考えてもらう機会を提供し、北本市は「市民の暮らしを最大限考えていますよ」、と言うメッセージとして伝われば良いと思っています。

最後に、市内の中小事業者に対して事業に必要な資金を融資する制度を設けて、経営の安定化と事業の発展を支援しているところですが、武蔵野銀行さんには地元金融機関として、今まで以上に親身になった金融相談や経営相談に応じて頂きたい。と同時に、当市にとっても圏央道整備に伴う地域ポテンシャルの向上が見込まれますので、企業誘致などの企業動向に関する情報提供やアドバイスを頂ければ助かります。ぶぎん地域経済研究所にも、経済シンクタンクとしての役割を引き続き発揮して、県内地域別の経済分析結果を行政ニーズに合わせて、容易に入手できる仕組みづくりを期待しています。今回は、私の浦和高校時代の先輩に当たる志木市の長沼明市長にバトンタッチします。

## 北本市の概要

人口(平成22年国勢調査)	68,888人
世帯数(同上)	25,856世帯
平均年齢(同上)	44.6歳
生産年齢人口比率(同上)	65.40%
面積(同上)	19.84平方キロメートル
名目市内総生産(平成21年度)	1,469億7,200万円
事業所数(平成22年工業統計)	77
製造品出荷額等(同上)	756億9,790万円
事業所数(平成21年経済センサス)	2,089
年間商品販売額(平成19年商業統計)	1,090億5,291万円